

令和6年度 稚内南小学校 グランドデザイン

【関係法令等】

- ・憲法(教育理念)
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・管内教育推進の重点
- ・稚内市教育大綱

【学校教育目標】

仲間とともに自立する子どもの育成

【学校研究主題】

仲間とともに自立するための資質・能力の育成

【目指す南地区の子ども像】

- ・夢を抱き、何事にも粘り強く挑戦する子
- ・自ら学び、自ら考え、創造する子
- ・正しく判断し、責任を持って行動する子
- ・自他ともに認め合い、お互いを高め合う子
- ・心身ともに健康でたくましく生き抜く子
- ・稚内に誇りを持ち、ふるさとを愛する子

「個別最適な学び」「協働的な学び」の場が保障される教育課程の編成を図ることを通して「教師主導(児童が客体)」から「児童が主体」の教育活動への転換を目指す

授業改革の推進

- ①「興味・関心をもって自ら学習計画を立案」し、「学習活動に参加することができる」カリキュラムの編成（教師主導型・講義型授業からの脱却）→ **自分で学習計画を立て実行したり、自分で学習課題を設定したりする授業の割合を増やす**
- ②学習に関する見通しをもち、個に応じた課題に取り組むことができる授業づくり→ **全員が同じ活動を同じ場所・同じペースで進める「一斉授業」の割合を縮減する**
- ③ICT機器を最大限効率的に活用し、多様な考えがあることを理解し、認め合うことができる授業づくり

【評価】「児童主体の授業への移行・試行が進んでいる」（教職員評価 目標100% R6前期結果71%） 「子どもは自主的・計画的に家庭学習を行っている」（5・6年保護者評価 目標100% R6前期結果70%）

学級経営・特別活動の充実

- ①自分の「考え」や「思い」を周りに気兼ねすることなく適切にアウトプットし、他者とやり取りすることができる力の育成
- ②児童が困っていることを相互に理解・共有し、教員のファシリテーションの下、改善・解決に向けて行動することができる学級・学年・学校づくり
- ③意図的・計画的な学級活動・児童会活動や学校行事を通じた望ましい集団づくり並びにいじめの未然防止に向けた多角的な取組
→ 児童の「こうしたい」「こうなりたい」という希望や夢を引き出し、PTA・地域社会の力を借りながら実現を図る

【評価】「望ましい集団づくりやいじめの未然防止に向けて、意図的・計画的な学級活動・児童会活動や学校行事を組み立てることができた」（教職員評価 目標90% R6前期結果86%） 「気兼ねなく、自分の考えを自分の力で言ったり、書いたりすることができるようになっている」（児童評価 目標80% R6前期結果86%） 「学校は子どもが他者とやり取りしたり、発表したりする場を適切に設定している」（保護者評価 目標80% R6前期結果95%）

発達段階に即した支援

- ①発達段階に応じてよりよい行動を取ることができる力の育成（自己指導能力や他者と適切に関わることができる力を付けるための計画的な指導）
- ②学校生活を送る上で困り感をもつ児童については、学習の内容や場所を選択肢をもたせ、組織的に指導・支援にあたる
- ③学校に足が向かない児童に関わり、本人が興味・関心をもつ事柄を学校内外で学ぶことができる環境づくり（学校内の教育資源を柔軟に活用した個別のカリキュラムの編成/本人の希望をベースとした学校外の多様な活動場所・機会の確保）

【評価】「個々の児童に応じた学びの場が、校内外でつくられている」（教職員評価 目標75% R6前期結果29%） 「発達の段階に即した基本的な生活様式を定着させるための指導を効果的に行っている」（教職員評価 目標80%）

連携・協働

- ①「南地区が目指す子ども像」を実現させるための3校間で協働した教育課程の編成（算数・数学科における習熟状況が不十分なことに関して、小中間で課題を共有した上での共通した取組の構築）
- ②学校運営協議会や地域学校協働本部を通し、地域社会と教育活動をつくりあげ、一緒に学校を運営していく体制への移行
- ③「子どものこと」に関することを保護者同士が情報交換することができる場・機会づくり

【評価】「中学校校区内で、算数・数学科に関する授業改善の視点を共通にもち、実践を進めることができている」（教職員評価 目標70%） 「算数の授業はよくわかる」と回答する児童の割合を100%とする（児童評価結果86%） 「保護者同士がやり取りをする機会を学級・学年経営の中で計画的に設けることができている」（教職員評価 目標80% R6前期結果75%）